

静岡県立大学
創立25周年記念事業

異分野融合フォーラム

経済学部経済学系



工学部機械工学科



理学部数学科



文学部国文学科



理学部化学科



国際学部国際学系



職員の皆さん



異分野融合はじまりました！

経済学部



活動報告は裏面へ！

Crossing the Chasm

<http://u-shizuoka.sessa.net>

異分野融合フォーラムは、若手教員や学生の文理を超えた学部間交流を促進することで総合的な研究に繋げることを目的に、静岡県立大学創立25周年をきっかけに結成されました。基本活動は、週に1回、一緒にお昼を食べながら行う情報交換（通称「ランチ会」）で、既に40回以上を重ねています。異分野交流の価値を実感してもらうこと、及び、当フォーラムの認知を高めることを目的に、各学部が持ち回りで公開セミナー（通称「拡大ランチ会」）を企画しています。

○ H23年度 異分野融合フォーラムの活動

基本活動である週に1回のランチ会では、拡大ランチ会企画の打ち合わせのほか、学内の教員や学生、事務局職員と一緒に、教育や研究、社会貢献などについて意見を交わし、異分野交流を一年間続けてきました。平成24年度以降も、異分野融合フォーラムの活動は続けていくので、ご興味のある方は、学内外問わず気軽にご参加下さい。これまでの活動報告と今後の予定はブログに掲載しています。

blog “Crossing the Chasm” ▶



○ お問い合わせ先

静岡県立大学
教育研究推進部産学連携室
(054)264-5124
renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

○ 拡大ランチ会 各回の様子と参加者のコメントを一部ご紹介します



ランチョン・シネマ『ノルウェイの森』

国際関係学部

ベトナム研究者の国際関係学部 比留間洋一助教の主催で、村上春樹氏原作“ノルウェイの森”の映画鑑賞会を開催しました。参加してくれた学生からは、異文化への興味が深まったという意見が多く寄せられました。

○この映画では、人の性や死を描くことで、人を愛することや生きることの難しさを巧みに表現していました。映画が進むにつれて比留間先生によるオープニングトークでの解説が、その場面にある“本当の意味”を理解するための重要なヒントとなっていることに気がきました（薬学部・教員） ○生と死、男と女など、村上春樹氏の小説には様々なコントラストが描写されているという比留間先生のクロードトークが印象的でした。このランチ会でも、私達のコントラスト（異分野）が融合して何か新しいものを生み出せたらいいと思います。（薬学部・教員）



コミュニティ・デザイン ～人と人の繋がりで生まれる価値～

経営情報学部

コミュニティ・デザイナー山崎亮さんを招き、人と人とのコミュニケーション作りに関するセミナーを開催しました。講演後は、参加した学生同士が感想を共有しながら、サークル活動の交流について話し合う姿も見られ、小さな異分野交流が生まれていました。

○化学系の研究室に所属している私にとってはモノ作りが基本なので、見えないモノを扱う仕事について深く知ることができてよかったです。私は他のラボと共同で行っていますが、同じ目標に向かい協力し合うこと、潤滑剤となる人物の働きやその重要性を切に感じました。コミュニティ・デザインという考え方を、多くの人に知って欲しいです。（薬学研究科・男子学生）

○我々、研究者にとっても『コミュニケーション能力』は非常に重要です。今回の講演で得られた知識を活かし、他者との交流を意識して行くとともに、これを学生にも広く伝達していきたいと思います。（薬学部・教員）

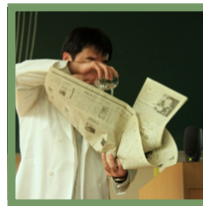


有機化学美術館の13年 ～皆様を芸術的な化学の世界へと誘います～

薬学部

サイエンスライター佐藤健太郎さんに、製薬企業職からサイエンスライターへ転身された経緯や、分子のお話をいただきました。薬学部だけでなく、他学部や一般の方も多く参加いただきました。夢に向かって果敢に挑む佐藤さんの姿に勇気づけられた参加者も多かったようです。

○化学の話面白かったのも初めてでしたし、この大学に薬学部がなければ知ることはない世界だったかもしれません。今まで国際関係の講演会ばかりに行っていたけど、今後は他の分野の講演会にも参加しようと思います。（国際関係学部・女子学生） ○化学とは縁遠い生活を送っていましたが、この異分野融合フォーラムを通じて他学部の先生方と関わる中で、異分野のことを知る楽しさを実感しています。こういった新しい世界への戸口に学生を連れていき、少し中を見せ、興味を持ってもらうことで足を踏み入れてもらう、というプロセスの設計が大事ななと思います。（経営情報学部・教員）



楽しい科学を目指して 一環静会（環境科学研究所助教の会）

環境科学研究所

環境科学研究所反応化学研究室の岩村武助教による、サイエンスコミュニケーション活動を中心とした地域貢献活動についての紹介と、その活動で実際に行っていた化学マジックを紹介しました。岩村先生が自らの研究を推進するだけでなく、次世代の科学者を育てようとする心意気に感銘を受けた参加者も多かったようです。

○岩村先生の化学マジックは、テレビで観るようなマジックと違い、タネがわかって実践できること、自分でやってみて、楽しく理解できることが魅力です。先生方には、岩村先生のように楽しめる授業で学生たちを育てていただけることを期待します。（一般・会社員男性） ○以前に受けた環境科学研究所の先生方による授業が面白かったので参加しました。いつも足を踏み入れない棟に入るのはわくわくしました。岩村先生の実験映像や手品を見て、もっと実験をしたくなりました。（経営情報学部・女子学生）



被災現場でのトリアージ ～あなたは災害時に何を優先しますか？～

看護学部

大事故や大規模災害など多数の傷病者が発生した際に、治療の優先度を決定する作業「トリアージ」をテーマに、NPO 法人災害・医療・町づくり副理事長大村純先生から講演いただきました。参加者も複数の学部に通っており、それぞれの観点から“いざというとき”のためにできることを考える場となりました。

○大村先生の「情報の共有が大事」という言葉に共感しました。私は薬剤師免許を取らずに研究メインのコースに進んだので、薬が使われる現場をあまり知りません。医療に携わる方の考えを学べる大変貴重な経験となりました。（薬学部・男子学生）

○フォトジャーナリストとして人との関わりが間接的だと感じていたので、医療という異分野ではどう考えているのか興味があり参加しました。このセミナーに参加して被災した市民だけでなく医療従事者の心のケアについても考えるきっかけとなりました。今後、写真を撮るときや取材をするときに、相手を見る視点が変わるのではないかと感じています。（国際関係学研究科・男子学生）



青年農業士向島和詞さん講演会『^{ちやれんじ}茶恋路』

食品栄養科学部

お茶の有機栽培を行う青年農業士 向島和詞さんを迎え、己の情熱と環境との共存を考えるユニークな農業哲学“茶恋路”について講演いただくとともに、天職とは何か、これから社会に出る同年代の学生に向けてメッセージをいただきました。学生からは、食を大切にする気持ちが芽生えた、向島さんの生き様に刺激を受け自分も何か行動がしたいなど多くの反響がありました。

○講義の中で、『人生を決めるものは何が起こるかということが2%、それに対して自分がどう対応するかが98%』という言葉がとて印象に残りました。自分の中の98%に自信を持ってやっていけば、それが自分の人生だ!と思えるようになりました。（薬学研究科・男子学生） ○講義を聞いて、私ももっと多くの事柄に関心を持ってみようと思いました。関心を持つことと行動を起こすことが、社会に出てからも求められていることであると再認識させていただきました。（経営情報学・女子学生）